

**福島第一原子力発電所3号機原子炉建屋
燃料取り出し用カバー 設置完了
現場確認結果について**

平成30年2月21日
福島第一原子力規制事務所

1. 目的

3号機原子炉建屋は、水素爆発によりオペレーションフロア(以下、オペフロという)上及び使用済燃料プール(以下、SFP という)内には多くのガレキが散乱していたが、平成25年よりオペフロ上及びSFP内の大型ガレキの撤去作業を開始し、無人重機によりオペフロ上の除染や遮へい体を設置するなど、作業員の被ばく低減を図っている。

燃料取り出し用カバーは、東西方向にオペフロを跨ぐ門型架構及びその上部に設置するかまぼこ形のドーム屋根で構成されており、使用済燃料取り出し作業における放射性物質の飛散防止のために設置される。

平成30年2月21日午前、当該燃料取り出し用カバーのドーム屋根8片のうち最後の1片がクローラクレーンによって吊り上げられ、3号機原子炉建屋オペフロへ設置される状況の現場確認を行った。

2. 確認日時、場所及び確認者

日時: 平成30年2月21日(水) 午前7時40分～8時50分

場所: 福島第一原子力発電所 1、2号機開閉所前

確認者: 福島第一原子力規制事務所 吉田原子力運転検査官、木村原子力運転検査官

3. 現場確認結果

最後に設置するドーム屋根1片は、半円状に組み立てられ、クローラクレーン2基による共吊りにより、3号機西側仮置き位置から設置箇所上部まで吊り上げられ、計画した設置箇所に無事設置を完了した。

現在、3号機SFPには、新燃料を含めて566体の燃料集合体が保管されている。今後、東京電力は、燃料取扱機・クレーンの電気試験及び遠隔操作室からの運転確認を実施する。その後、燃料取り出しに向けた準備作業として、SFP内の小ガレキを撤去するとともに、燃料取り出し作業の習熟のため、燃料取扱機・クレーン、ダミー燃料、構内輸送用容器を用いた訓練を実施する。

燃料取り出し開始時期については、平成30年度中頃の見通しである。



【写真1】ドーム屋根設置前



【写真2】ドーム屋根吊り上げ



【写真3】ドーム屋根吊り下ろし



【写真4】ドーム屋根設置完了

以上